



竹千代賞

夏雲の静かに動く水たまり

汐見愛花

【評】

「夏雲」は夏空の雲のこと。代表的なものとして積雲と積乱雲などがあります。が、青空に大きく湧く純白の雲は、圧倒的な生命力を感じさせます。活気に満ちた「夏雲」ですから、活発に動く姿を連想させますが、この句の作者は「しずかに動く」と見たのです。普段は何気なく見過ごしているというか、さして気にも止めない変哲もない水たまりに映るのは出来たての夏雲。見上げればはるかに続く、夏空のほんの一部を切り取って、水たまりに映し出される夏雲。時間が止まったかのように少しづつ動き出す雲。この小さな発見こそがこの俳句に诗情をもたらしたのです。見たもの、見えるものを素直にとらえた作品に共鳴しました。